

日本中小企業学会

2020年1月

# 会 報

No. 76

## 会長就任にあたり 日本中小企業学会 佐竹 隆幸 新会長挨拶



佐竹 隆幸 (関西学院大学) 新会長

### 「研究成果の地域社会への還元」

2019年11月1日付で、日本中小企業学会の第14代会長に就任しました。本学会は中小企業論の祖・山中篤太郎先生を中心に1980年に設立され本年で39年目となりました。中小企業研究に取り組む多様な専門分野の研究者が結集し、異質多元的といわれる中小企業の総合的・学術的・学際的研究を発展させ、その成果の普及を図るといふ本学会の目的は、これまでも、そして今後も変わることはありません。

日本の中小企業は、近年、事業承継が大きな課題となっています。社会経済構造の変革期にあり、中小企業をめぐる経営環境も大きく変わりつつあります。日本経済が発展するためには、中小企業の存立が必要不可欠ですが、多くの中小企業は経営者の高齢化と後継者不在という深刻な状況に陥っています。この問題にはできる限り早期に解決策を講じる必要があります。このまま放置すれば中小企業を持つ技術やノウハウ等が失われ、その後起こる日本経済への影響は計り知れ

ません。同時に、人口減少局面で過疎化が進行する地域社会においては喫緊の課題であります。地域の疲弊が深刻化するなかで、地域資源の活用や企業間、地域間、産学公間の連携等による活性化へのポテンシャルは少なからず存在していますが、その実効化については企業間や地域間で格差が生じています。

本学会としましては、これまでの研究の業績をもとに、さらなる発展と進化、研究成果の地域社会への還元として、事業承継等の中小企業の課題解決にこれまで以上に貢献していくことが私の目指すところです。中小企業研究も転機を迎えています。企業単体の存立から、社会全体でのあり方について意識した中小企業の経営を社会的基盤としての存立意義を改めて確立する必要があると考えます。

以上、これまでの伝統と成果を踏まえ、日本の中小企業研究の中核である本学会をいかに発展させ、次世代に繋げていくためには、若手研究者の発掘と育成が必要不可欠で、若手会員の増強を図ることが重要であります。その方向性と戦略を考え実現していくことが、新会長に与えられた責務であり、設立から間もなく40年を迎える本学会ですが、多くの会員・役員諸氏とさらなる発展に繋げていきたいと考えます。

岡室博之前会長は、会長就任のご挨拶で「社会・経済の仕組みの大きな転換期のなか、日本の中小企業の経済環境や中小企業研究が大きく変わりつつある。変化に遅れず、挑戦し、本学会を真に日本の中小企業研究を代表し、若手研究者を魅了し、世界に通用する学会にすること」と決意表明を述べられました。これらは、13期運営体制のもとで大きな成果をあげられましたが、14期においてはさらなる学会の発展を目指し「地域＝中小企業」であるといわれるかごとく、地域創生と中小企業存立を軸とした多くの課題に対し学会として会員増強も含め果敢に取り組むことを引続き私の使命としたいと考えております。今後の本学会運営につきましては、中長期的な視点から、会員や役員の皆様と共に課題の共有と活動内容を検討して参りたいと思いますので、なにとぞ、ご理解、ご協力の程よろしく願います。